
青

録

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青

【著者名】

IZUMI

【作者名】

鼬

【あらすじ】

青だけが好きだった僕の白い君への短い恋

(前書き)

『仮の向くまま書きもした。』

僕は青だけが好きだ。

だから、青い空と青い海を見に行く。

今日は曇りだった。

雲で覆われた空は正直嫌だ。

雨なんて以ての外だ。

そんな僕にも一度だけだが、青以外に一回だけ好きな色が出来た。

僕は恋をした。

白いワンピースを着た女の子に。

君は眩しいくらい白かつた。

服、顔、足全て白かつた。

その時から白が好きになつた。

僕はその日からずっと、君の姿を田で追つていた。

雲が空

を覆つっていても、気にならなかつた。

僕の世界には君がいるだけで十分だつた。

青い空も青い海もいらなかつた。

ただ、白い君を見ていた。

僕は多分その時だけ、青より白が好きだつた。

ある日だつた。

君は赤いワンピースを着ていた。

いつも着ていた白いワンピースではなく。

僕は怒りと悲しみを覚えた。

何故、君は白ではなく、赤なのか？

君には白が一番似合つのに。

僕は聞いた。

「何故赤いワンピースを着ているの？」

君は答えた。

「赤のほうが好きだから。」

僕は走つた。

僕の恋は終わつた。

僕の好きな君は白い君で赤い君ではなかつた。

第一僕は赤が一番嫌いだつた。

血を連想するからだ。

だから、赤い君は嫌いだ。

そして、白い君は僕の中から消えた。

その時、僕は白は好きではなくなり、青がまた一番好きになつた。

今日も僕は青い空と青い海を見に行く。

た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1602g/>

青

2010年10月12日10時22分発行